

マングローブ林隣接内湾域に生息するカニ類（主にタイワンガザミ）の資源生態に関する研究 （マングローブ林の水産資源の維持培養の効果に関する研究） 要 約

佐多忠夫・島袋新功・友利昭之助*

1. 目的及び内容

本研究は、マングローブ林水域及びその隣接内湾域における有用水産生物、特にカニ類の資源生態を明らかにすることを目的とし、その一環として特にタイワンガザミを中心とした資源生態調査を行い、カニ類の漁業資源の維持培養および有効利用について検討する。以下その研究の要約を述べる。

2. 要約

調査地は与那城村の金武湾海域であり、当海域を漁場とする与那城村漁業協同組合にて、カニ類の漁獲状況調査、甲幅測定及び稚ガニ調査を行った。

沖縄県における1990年のカニ類の漁獲量・漁獲金額は、97トン・135,000千円であり、その内ガザミ類は74トン・99,000千円でカニ類の大半を占めていた。

与那城村漁協の1991（1990）年のカニ類の漁獲量は、14096(9810)kgであり、その内タイワンガザミが13052(9203)kgと最も多く、漁獲量の90%以上も占め、次いでノコギリガザミ類（アミメノコギリガザミ、アカテノコギリガザミ、トゲノコギリガザミ）が321(393)、アザヒガニが185(87)であった。漁獲量の面からみると、漁業的に重要な魚種はタイワンガザミとすることができる。

与那城村漁協におけるタイワンガザミの月別漁獲量は、6-12月の年後半で多く、特に10、11月に多く、1-5月の年前半に少ない。

与那城村漁協で漁獲される（1990年11月-1991年11月）タイワンガザミの大きさは、甲幅約4-18cmであり、漁獲の中心は約12-16cmの範囲にあり、冬期に大型、夏期に小型個体が多い。

与那城村漁協にて1990年8月-1992年3月に測定されたノコギリガザミ類は173個体であり、その内アミメノコギリガザミは156個体で90%以上を占めた。アミメノコギリガザミの漁獲サイズは甲幅約9-20cmであり、雄は14cm以上、雌は14cm以下の個体の占める割合が高かった。

与那城村海域におけるタイワンガザミの稚ガニの定着は4-12月にみられ、その出現密度は4-6月・10-11月にピークがみられる2峰型であった。また定着する稚ガニは大部分が2cm以下の個体であった。タイワンガザミは干潟に定着し、成長するにともなってより深みへと移動すると思われる。

*：現所属 漁政課

